

ポニーアーキテクト(札幌市)

代表取締役 森徳彦氏



工務店×建築家

大平洋建業(札幌市)

代表取締役 佐藤誠氏



# 第4回 ゼロカーボン ヴィレッジ対談

地域工務店と建築家が協働グループを組んで北方型住宅ZEROの住まいづくりを行う空知管内南幌町の「みどり野ゼロカーボンヴィレッジ」。現在11グループの基本プランが公開され、オーナーを募集中。工務店と建築家がどのような考えでプロジェクトに参加し、どのように協働したか、対談形式で内幕を聞くシリーズ。第4回は大平洋建業(札幌市)社長の佐藤誠氏とポニーアーキテクト(同)社長の森徳彦氏。二人が「木が一つのキーワード」と語る住宅とは。

## コミュニケーションを生む設計

共にパッシブシステム研究会に所属し旧知の仲だという佐藤氏と森氏。今回、移住者がコミュニティに溶け込み、暮らしを作り上げていく住宅「暮らしと庭づくりを築く四季の家」を提案した。

合理化でコスト削減

佐藤 プランのスタートは森さんが主導してくれました。最終的な数種類から決める段階では、当社の技術スタッフも入って、コストも含めて意見を押し付けて提案プランに固めていきました。

森 資材は高騰してきますから、なるべく工程を減らすことを考えま

木の家と五つの庭

森 一番の特長はやっぱり木ですね。木の室内空間といいますが、塗装なしで、木の手触りや香りがして南幌町のイメージにはぴったりのんじゃないかなと思います。

床組みのような構造を壁にして、現しで見せてしまおうというアイデアなんですよ。外張り断熱にして、木の香りや手触りを室内に広げる。構

造用合板と躯体にはカラマツなど道産材を使っていったらいいかな。

佐藤 道産材を積極的に使うのは賛成です。できるだけ地産地消しようという話し合いました。

森 太陽光と日射取得の関係で建物を真南に向けています。そうすると土地の四隅にスペースができます。この四隅の一つ、北西側は防風林で冬の風を防いであげて、隣地側はバックガーデンを設けて、一番広いメインの庭は小さな森を作った。あ、お父さんが遊んだり、夏は日陰を作って涼しい風や空気が滞留するようにね。あとは太陽光のパネルの前は日陰を落とせないで、ここは家庭菜園スペースに。最後に五つの庭として、中庭のウッドデッキをアウトドアリビングとして考えています。



内装イメージ。木の香りが伝わる。

冬の停電に備える

森 太陽光発電パネルをカーポートにつけたのは、家の顔を大事にしたかと思っただけです。住宅の壁面にあまりつけたくないな(笑)

佐藤 私もそう思います(笑) 森 そもそも、日中に電気を使いたいの冬なん

じゃないかと。壁面設置はやはり冬の発電効率が低いんですよ。

佐藤 まあ、今後ですかね(笑) プラックアウト時には、給湯、暖房、それから照明。照明は階段とか廊下に保安灯をいくつかつけて、それから食事する部屋。みんなが集まる部屋に関しては電気が供給されます。

森 非常時にはすぐ心強いシステムですよ。日中まるまる充電できたと思ったら翌日はそのまま1日持つという基準で発電と蓄電池の容量は決めています。

あとは新ストープ。要はバックアップですよ。換気は、パッシブ換気は電力を使いませんので、機械がないから壊れない。災害時も大丈夫。こないことないですよ。なぜかそれがあんまり評価されていない。

暮らしを作り、守る

森 住宅の性能はもちろんな、近所付き合いや趣味の付き合いのような、人と人の交流に活用してもらいたいというのが最初のテーマです。

移住の初めは知り合っても少ない中で暮らし始める。そこでどうやって友達を作り、楽しい暮らしにしていけるか。家族の中に對してもそうだし、中と外に對してのコミュニケーションが生まれるような設計になっていいます。いろいろな形で活用しやすい仕組みを作ったので、あとはもうご自由にどうぞ使ってください。

佐藤 本当にメリットし

佐藤 僕はですね、自然豊かな南幌の環境で、若い世代の子育てに貢献できる家を提供したいな、というのが初めに思ったこと。と、とんたんとこれから、我々のプロジェクトに限らず、いろいろな家族が増えればいいというのが、携わっている理由かなと思います。

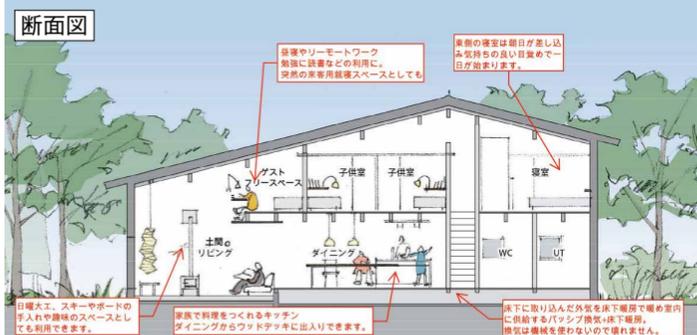
森 北方型住宅ZEROはよく考えられていますよ。いろいろな方向から目標と細かいルールが決められていて勉強になります。

佐藤 道民にとって、北方型住宅ZEROは性能や断熱・気密だけの評価ではなく、地産材の評価などもあって方向性としては非常に重要なんじゃないかなと思います。

森



外観イメージパース



断面図

庭裏やリモートワーク敷地に設置などの利用に、太陽光の専用設置スペースとして

屋根の構造は目隠しは必要ですが、日射量が多いので

日射大工、スキーやボードの手入れや車庫のスペースとしても利用できます。

車庫で料理をつくれるキッチン、ダイニングからウッドデッキへ出入りできます。

床下に取り込んだ外気を床下暖房で暖め室内に供給するパッシブ換気(床下暖房、換気は機械を使わないので静かです)。